# 三河アララギ

２０２２年 令和４年９月 長月（ながつき）

九　月　号

第 六十九 巻　　第 九 号

# ニューヨーク日記（191）

http://blueshoe.copetin.com/

**BlueCat, Shoe Lady**

## LA CONCHA

## Blue Shoe Diaries

サンセバスティアンのラコンチャビーチ綺麗でしょ？ グルメの街で知られているけど夏は国際（？）花火大会もあるの。一週間かけて毎日違う所が花火を披露。打ち上げる直ぐ側で見れちゃうから迫力もかなりある。あまりにも凄くって時々ちょっと心配になるぐらい。でもと〜っても面白かったよ。

This is La Concha beach in San Sebastian. Gorgeous, right? San Sebastian is well known as the gourmet capital of the Basque region but in the summer, they are also known for their international fireworks competition. For a span of 7 days, each participating location puts on a show. You get to see this right by where they light the fireworks so it's very dynamic and you can really feel the explosions. There's nothing quite like looking at fireworks so close! Amazing!

# 目次

## 第六十九巻第九号（通巻八二五号）


表紙・木もれ日　今泉　由利（1）
ニューヨーク日記(191)　Blue Shoe（2）
歌集　わが冬葵　御津　磯夫（4）
歌集「草々後集」　今泉　米子（5）
昭和46年九月号作品　大須賀寿恵（6）
昭和46年九月号作品　夏目　勝弘（7）
昭和46年八・九月号作品　岡本八千代（8）
文月の尽　弓谷　久子（10）
隠岐島へ　今泉　由利（12）
短歌あり　安藤　和代（14）
文月　山口千惠子（16）
お佛供さん　清澤　範子（18）
百科事典　杉浦恵美子（20）
友と交信　伊藤　忠男（22）
自宅療養　白井　信昭（24）
歩く　矢崎　直人（26）
附録(三)　矢崎　直人（27）
『ことよせ』　いーはとぶ　牧原　規惠（28）
稲吉　友江（28）
鈴木美耶子（28）
吉見　幸子（29）
牧原　正枝（29）
森　厚子（29）
山崎　俊子（30）
伊藤　晴江（30）
三田美奈子（31）
水野　絹子（31）
現代学生百人一首　東洋大学
藤原　春歩（32）
藤原　祐奈（32）
加藤　理子（32）
黒田　孔（32）
清水　利空（33）
伊藤　諄哉（33）
竹川　友梨（33）
島倉　匠（33）
植村　公女（34）
木村　歩歩（34）
今泉　如雲（34）
今泉　由利（35）
矢崎　直人（35）
杉浦恵美子（36）
山本紀久雄（38）
丸山酔宵子（40）
高橋　育郎（42）
今泉　雅勝（44）
江上　浩二（46）
花野みぷり（48）
本田　勇気（50）
玄　翁　（52）
横山　精真（54）
今泉　由利（56）
岡本八千代（58）
今泉　由利（59）
『俳句』
五感を澄ませば（3）
楽しい時間（118）
『酔いの徒然』（125）
絹の話（142）
「江上浩二の独り言」
初狩便り10
本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬
康鍼治療院
乱蝉を聞く
西芳寺（苔寺）にて
「氷魚」のことから(259)
編集室だより
「三河アララギ」について　（60）

# 歌集　わが冬葵

御津磯夫

手さぐりに子が渚より拾ひあげし貝殻白しかさねられつつ

青く長くいくすぢ垂れてうちなびく伐りのこされし胡桃の木の花

五位鷺のゆく月細き空を見て四日といへば六日なりといふ

草の中に失せし手なれの木鋏を探さむすべのあれこれもなし

カクタスの芽を喰ひあらすは蝸牛と知れども怒るほどにもあらず

空の黄のうすれゆきつつまひるまの光は長き蘇鐵の葉の上

生かされて七十一にもなりたるをおのれ怪しむことさへもせず

さわさわにみどりのまびく奥ふかくこもれる我を神も妬まむ

芋の葉の上にかがやく朝々の露は天よりふりたるならず

うからからの中に頭（かうべ）をたれをりてきこゆるは赤色赤光（しやくしきしやくこう）のところ

# 歌集「草々後集」

今泉米子

夕昏らむ厨のわれに聞えつつわが屋敷杜の仔カラスのこゑ

門柱を越えて茂りて枝張りて今年まばゆき黄素馨の黄の花

午後よりの西日に明るき大廊下おもひいづるは自らの齢

真椿も若きみどりのかがやきて子育てすみしか烏のなかず

すひかづら貧乏蔓の北の窓からみあひつつ天にむかへり

アンカンサスの花梗そろひ立ち立てり今日のいのちの朝光の中

夕刊を取りに出でたる庭の径ちらちらとして姫小判草

北の窓に枝近づきて白加賀の熟れてゆく実のつぶらつぶらに

奥庭へ出づることなしわが部屋の机の瓶の沙羅の木の花

朝光にみどりかがやく庭にいでて胸ひらきつつ呼吸するべし

# 昭和46年9月号作品

大須賀寿恵

ノボタンの今年の花の咲き出でぬ吾が京に立つあかときにして

鳩の鳴く辺りが御所と横切りぬカラスマ丸太町三丁目

濡れタオル頸に垂らして涼とりながら御所のめぐりの砕石踏みゆく

木の股にホコラ二つの大えのきホコラに生ひし草なびきつつ

根本より五つに枝を拡げたる大樟洩るる朝の日を踏む

大樟の枝ひろげたるあはひより黒松一樹天に向へり

丸太町三条み池四条烏丸カラスマ通りここに終りぬ

箒の目正しくつきし下水道に沿ひつつ御所のまわりを歩む

豊国廟の参道長し白壁に相合傘の落書ならびつ

萎へし足痛む夕を宿にをり窓辺にゆるるアマドコロの青

# 昭和46年9月号作品

夏目勝弘

迷ひゐて一年すぎに九月にはこの枝切らむ鉢の黒松

六月のくらき昼なか磁器のごとき温もりを知る梔子の花

顔に当る雨に口まで歪めゐる我子を抱きて庭に出てゐる

焚付の紙さへ燃へぬこの夕べ裏山深く移る蜩

きれぎれに金属音の鳴き声す木立なきわが小南口原に

違へたる証拠書もらはむと捜す家猫を懐に女いできぬ

整へし庭木の楢にさみどりの返す若葉のなほ繁りたる

突然に我が家下の辻のあたり浅蜊や蛤と太き声たつ

見てゐぬまに群れとなりたる紋白蝶の縺れ渦巻きのぼりゆきたり

夏日くもる小南口原のマンホールより線対称の声湧き上がる

# 昭和46年8・9月号作品　蒲郡　岡本八千代

御仏前と書かれし文字に墨マジック鉛筆もありてみなありがたき

名前無き御仏前が一つありたしかにこれは水野美太郎さ

父の好みし五月雨桔梗のむらさきを白菊に交じへてわれは供へぬ

父の忌の終わり仏前にただひとり番茶をつぎてわれは飲みをり

墓参りせむと言ひ出づる人もなく父の忌に来し人ら帰りぬ

人ひとりもどりて来りて牧原の姓を残せとわれに言ひゆく

何ぞもと聞く人もなかりき仏前に積み重ね置きたる歌集かぜくさ

右と左に抽き出しが一つづつあるだけの小さき木机は父の形見なり

八畳間のまん中に置きし木机をまた北窓の方に向けて置く

夾竹桃の花がいっぱいゆらぎゐる北の窓楽し北に向きて坐る

我れだけの世界のごとく梅雨ふれる傘の下にて思ひてをりぬ

今のままの幸せ続けとねがふべし父の形見のヒメハギの咲く

手さぐりにヒメハギの鉢を探しをり梅雨のやみたるこの夜の庭に

いま一度青年心理青年期読まむとひそかに夜半に起き出づ

コロッケをつくりてわれは吾子を待つ昨日のいさかひいまだなほらず

# 文月の尽

豊川　弓谷久子

例も無き早き梅雨明けあの日より真夏の暑さ今日も続きぬ

天も地も赤く染めをりあかときの朝焼けの空雨真近しか

現実と暫し思えずテレビの中に安倍元首相射殺されたり

安らかにとは言ひ難きかな無謀なる兇弾に仆れし人を思えば

みさと運転の月に一度の外出日御堂山の空に雨雲たれこめて

血圧も脈も正常と聞かさるる月に一度の今日検診日

行動制限解除となりし今日も又コロナの数はふえ続き行く

何処にて孵りしものかそら豆に似たる小蛙庭を飛び交ふ

ケーキより好きと言ひつつ子の買いくれるみたらし団子楽しみて待つ

八千代先生の文と逢いたり蒲郡市の学校記念冊子の中に

「八兵山と私」と題あり子供等との絆ほのぼの伝はり来る

教職の永き時代のこまごまが書かれていたり心ぬくもる

今がまことの梅雨明け十日か大雨も猛暑もすべて記録的

テレビの音もかき消す雨音豪雨の夜雷鳴真近し轟き渡る

蝉時雨の中に一日過ぎゆきぬ真夏日続く文月の尽

# 隠岐島へ

東京　今泉由利

隠岐島何処にあるのどの位置にこんなに知らないことを知りゆく

空にゐる海を見下ろす雲に入る本当のことをしてゐるところ

羽田より伊丹までゆく飛行機に四十五分間乗りたることよ

しっかりと測られてゐる四十五分しっかりと日本見下ろしてゐた

常使う筆箱よりかミニ鋏と鉛筆削りを没収された旅客となりて

無手となりなんだか情けなきままに四十五分の長かりき

幾筋か飛行雲ありその中へ我飛行機も長く雲をつくりてをらむ

層雲と浮雲とのその空を飛んで飛んで隠岐の島まで

飛行機の私の窓まで届くかに雲の峰立つ幾つ幾つ

綺麗だなあの色この色天然の空より見下ろす私の地球

日本海隠岐の島々見下ろしてたちまち着地す隠岐の空港

空であり海であり島である一つ座席に三百六十度見ゆ

星々と同じ素質をもつといふ人間として自らのこと

自らの心のままに隠岐の島の空気美味しい水の美味しい

神の世を今に繋ぐる隠岐の島一歩一歩を厳かにゐる

# 短歌あり

豊川　安藤和代

青田風清しく入り来る今朝の窓子つばめの声大きく聞こゆ

大原も緑に染まる畑中にトラクターの赤ひと際さえる

真昼間の夏の大原人もなく玉蜀黍にさわさわの風

甘夏は渥美の香りつれてくるマーマレードに夏をいただく

若き日に登りし山よ本宮山入道雲背に堂々と立つ

昨夜の風いたづらさんです玄関に木の葉花片雑然とあり

セールスの青年孫とどこか似て話し込みたり暑き午後の日

「五才若見え」そんな言葉に魅せられてクリーム二ヶ月効果わからず

若き日の旅で求めし南部鉄風鈴今年も涼しさはこぶ

古風です窓は簾と風鈴と私の好きな向日葵の咲く

週間天気名古屋見るより孫のいる京都の予報にラインを入るる

幼き日庭に蛍の飛び交いたあの感動を今も忘れじ

肥えづきし青田すれすれ天の如つばめ飛び交い梅雨明けを聞く

短歌ありひと日ひと日は楽しけれ名もなき草にも心遊ばず

夕風に散歩する人走る人チワワヨチヨチ川に沿う道

# 文月

豊川　山口千惠子

早々と今年の夏がやってきた連日テレビは猛暑を伝へる

一年(とし)の半分早もすぎ去りぬ文月(ふづき)一日朝より暑し

ガラス瓶時折ふりて様子見る梅のシロップ漬もう出来上がる頃

しぼみたる梅の実浮かぶガラス瓶梅シロップのでき上がりたり

ネムの花見頃とテレビに写りゐるネムを詠みたる人憶ひゐる

夫とわれ老人二人のわが家にも空手教室への誘ひのチラシ

玄米を一輪車にのせ運び来ぬ無人精米所に米搗かむと

青々と夏草しげる家の跡住みゐし人の行方は知らず

この狭きわが集落に幾軒か家継ぐ人の無くて空き家に

軒の巣に雛の姿今年見ず空の巣見上げ入り行くかな

紫の色濃き花と淡き花アガパンサ咲く梅雨空の下

思ひつきし一つ言葉を書きとめむ見てゐし今朝の折り込みチラシに

昨夜の雨上がりて水つく休耕田水面に数多アメンボすいすい

道畔の繁る草の刈られたり青草匂ふ朝の道ゆく

赤き実を銜へて鴉飛び行けり二羽連れ立ちてわが行く前を

## お佛供さん

春日井　清　澤　範　子

彩りの良ろしき薬十二粒今朝も呑むなり吾の始まり

スーパーに設けられたる一角に参議院の期日前投票に行く

朝夕と炊飯すればお佛供さん二度供えたり慰霊の前へ

両足にむくみのありて受診する利尿剤足し処方して下さる

礼の言葉にも娘にも必要なこと互に仲良くやろうねと誓う

左手を転びて骨折してしまう二ヶ月を過ぎギブスはとれぬ

ギブスとれサポーターに替りたる左手は手指動かすも軽くなりぬ

娘には買物だけは頼むこと料理するのは吾の役目と

まだ少し腕の外側痛むなり娘は日に5薬よ母さん

日常の吾と娘の二人なり大かたのこと娘に従う

ギブスの手に体温計にて計る時右わき左わき体温違う

ギブスの手二ヶ月を過ぎようやくに指手首どんどん動かす

梅雨に入ったと見られる予報あるも翌日なんと三十三度

梅雨の晴れ間一斉に蝉の声聞こえきて一時（ひととき）消えいて又鳴きをりぬ

蝉しぐれ我が家の庭の貝塚にとまりて鳴くよ今日の一日

# 百科事典

蒲郡　杉浦恵美子

今の世は指一本で直ぐわかる百科事典はもう遺物かも

百科事典書棚を占める十九巻要らぬと思へど夫の遺しき

百科事典取っておこうか我が言へば頬ゆるみたる夫思ひ出づ

おそらくは無理して求めし書籍ならん夫の遺しし百科事典よ

勉強がたった一つの拠どころ夫の青春百科事典よ

遺はぬとわかりていても捨てられぬ百科事典よ夫の遺しき

えいやっと求めて仕舞いぬ金色羅皇五キロはあるぞ黄色の西瓜

事足るは我には僅か四分の一友と共にぞ甘さを愛でる

黄西瓜こんなに甘いか改良の過程しのばる金色羅皇

今の世のあらゆる果物甘くしてこれでよいのかふと思ひたり

コロナ禍にウクライナ侵攻その次は禍々しき発砲遣る瀬のなさよ

こんなとき我が身を如何に処すべきか思ひ付かざり読書に逃ぐる

今読むは一茶の伝記彼とても遣る瀬の無さを抱へて生きけむ

我が身にはあり得ぬ濃厚接触者夜更けの着信音にふと気付きたり

花火大会すっかり興味なくしたりコロナ禍の夏三年目なれば

# 友と交信

大阪　伊藤忠男

瀬戸内の空に海原青ばかり煌めく光まぶしなるかな

写真には彼の奮闘横目見て愛犬あくびのどかに映る

大型の船舶行き交う音戸瀬戸操舵の手並み彼ならでこそ

最大の難所関門明日通る我ら４人も手に汗握る

素晴らしき景勝地ほど危険なり岩避けヨット右に左に

動画から流れるヨットの揺れ動き我らも酔いに襲われるなり

無時通過連絡あるは朝のこと我ら４人拍手のメール

由緒ある北前船の寄港地を共にたどるか日本海沿い

日本海流れに乗りて行き着くは自然と出雲若狭なり

福浦に輪島を過ぎて酒田へと北前船の話題に弾む

秋田より引き返すとの便りあり津軽の航路気がかりなるや

逆潮に航路取られてまだ着けぬ旅の終わりもゆるりゆるりと

「須磨に着く」友のラインに我もまた安堵の気持ち胸に溢るる

八十に合わせ航海八十日日々の動画でともに我らも

八十の歳にヨットの旅終えた友の勇気に拍手惜しまず

# 自宅療養

豊川　白井信昭

擁壁に単管パイプ差し渡し今日という日の固定を終えぬ

生け垣に四本戻してサルスベリ回復途上の今を萌え出る

生け垣に今や七本揃い立ち木々の回復を暑さもひとしお

地境に青き砕石混ざりつつ石を掘り出す夕の一時（ひととき）

開け放つ六畳二間前後雨夜の蛙鳴き響（とよ）もせる

花咲きて我に存在示す如み社近きこの花畑は

抗がん剤ゲムシタビンまたシスプラチンわがベッドの上に点滴つづく

窓の外バルコニーの下裏に何蟬かひとつ動くとも見えず

病室の裏窓の色濃くなりてナトリウム灯の光の中に

前芝の『蒲郡街道』ここよりは楓並木の今を寿ぐ

生け垣の踏み台としてU字溝三個横付けに作業捗(はかど)る

かの家は小学校近く真向かえる故御津先生の陶房のあとと

褒賞の湯飲み茶碗もここで以って作りしものと思ひは及ぶ

通学路小学校沿い通りゆく先生の校歌口遊(くちずさ)みつつ

我と妻無症状にて朝夕の体温はかる十日の間

# 歩く

埼玉　矢崎直人

大宮の氷川神社の参道の欅並木の夏の木蔭の

大き字を書くのも自信表れと私の心大きくいだす

図書館でハリーポッター全巻を借る小学生の夏休みかな

おりてくる夕日の眩しサングラスかけて夕日に向かって走る

晴れた空カミナリの音したような彼方のカミナリ聴ける耳かな

ジョギングを終えて一瞬肌に受く風の涼しきかえがたき涼

ジョギングで掛けて貰へる声のあり「ガンバッテルネ」に力を貰ふ

# 附　録（三）

矢　崎　直　人

令和三（２０２１）年六月五日。六時間かけて三十三キロメートル、環状七号線を高円寺から亀有まで歩きました。環七は、東京都道３１８号線で、高円寺から北に歩くと、杉並区、練馬区、北区、足立区、葛飾区と23区の北部を横断していきます。中山道や日光街道など主要な街道と交差し、荒川、隅田川、綾瀬川といった川の上を渡ります。

## 六月の風の大川橋の上

俳句には「六月」という季語があり、正岡子規は「六月を綺麗な風の吹くことよ」と詠みました。梅雨の時期で雨の季節というイメージが強いですが、晴れても真夏程湿度は高くなく、風が心地よいのを子規は素晴らしい感性で摑みました。江戸時代は隅田川の下流のことを大川、浅草川と呼んでいました。大きな川の上を歩いて橋の真ん中まで来ると、気持ちの良い風が吹いていました。水の流れをみていると心が落ち着いてきて穏やかな気持ちになります。

## 西新井大師に詣で粗忽者『堀之内』かな高円寺から

落語に『堀之内』という噺があります。私が住んでいた木村荘の最寄り駅、東高円寺駅から西に十五分ほど歩くと日蓮宗の妙法寺があります。日蓮上人が御祖師様と呼んで祀られており、粗忽者＝そそっかしい人が信心するとその性格が治ると江戸時代に大変流行しました。神田の粗忽者熊五郎さんが奥さんに言われて堀之内にお参りに行こうとするのですが、道を間違えて浅草に行ったり、妙法寺でお賽銭をあげようとしてお財布ごと賽銭箱に投げてしまう噺です。私は逆に（？）環七を歩いていったら西新井大師に辿り着きました。コロナ禍であったので、お店は半分くらい閉まっていました。その中でも、お参りに来る人のためにお団子屋さんがあいていました。

「お団子いかがですか」

「お団子ください」

「どちらから」

「実は高円寺から歩いてきました」

「へえ、高円寺から。それはお疲れ様でした。このお団子は脚の痛みによく効きます」

## 六月や歩いて大師の草団子

# 『ことよせ』

西浦公民館　いーはとぶ

雨降りを見越してわれは芋を挿すあれからなんと梅雨の晴れ間よ　牧原規惠

突然の雷鳴りて雨を待つわれの期待はまた裏切られて

梅雨の間にしつかり水を含ませて猛暑の夏を乗り切る覚悟

わが孫と磯に遊びてカニ五匹ヤドカリを三つ持ち帰り来ぬ　稲吉友江

孫帰り置きてゆきたるカニ達を海に戻すは夫の役目かな

ドキドキの血液検査異常なし夕餉のおかず一品増やしぬ

海風に吹かれ吹かれて千萱の穂私も吹かれて今日ごみゼロの日
仲間らと竹島までをゴミ拾ひ私に手強きこの段ボールは
小草の名知るはひとつもなきままに海辺の草生にごみ拾ひつつ

**鈴木美耶子**

目覚むればまづはストレッチ背伸びする窓開けたれば薫風香る
御津駅に孫来るを待つ待合室に御津御馬のポスター目に入る
この出会ひ文協だよりの表紙飾る中村先生の文甦る

**吉見幸子**

温泉へバスは行つたかあと五分通学のごと眼科検査へ
われ一人の暮らしはあいまいメモばかり孫はプラムを描きてくれたり
埋め立てにカブに軽トラ停車なく沖の船影われは見てをり

**牧原正枝**

坪庭に青々芽吹く芝植ゑて蝶の来たるも嬉しと思ふ
わさび田の蝶は害虫網でとるとパセリを守る吾も鬼と化すか
用水の水漏れ憂ふ水無き田にけふはわづかに梅雨の雨降る

森　厚子

花終へし水仙の葉を三つ編みにおさげ髪の少女をいくたり
草とりす無心になりて土を掘り手をば動かす春の陽の中
草とりの供はわが猫の二匹にて手の先の土掘りてゐるかな

山﨑　俊子

けふもまた寝坊の我の隣に来て愛犬チャコはご飯をただ待つ
羽黒山の石段詣の帰り道茶屋より臨めり庄内平野
山の峰にニッコウキスゲの咲き誇る芭蕉の訪ひし月山に我佇つ

伊藤　晴江

私のなんとも狭き庭ながら黒楊羽くる真紅のベゴニアにか
ベゴニアの花に真つ直ぐ飛んで来る黒きあげはは紅を好くらし
花の上にしばし憩ひて黒あげは何処ともなく飛んでゆきたり

三田美奈子

誰が為に咲くや真白き姫女苑庭の片隅雨に打たれて
亡き父に生き映しかなその画像タイムアップの古希の息子は
烏賊の目視線（まなこ）さむざむと朝の厨光りてゐるかな俎板の上

水野絹子

# 現代学生百人一首

東洋大学

七枚に大坂なおみの強い意志優勝で示す命の在り方

国分寺市立第五中学校三年（東京都）　藤原春歩　14歳

「こ」と打ってコロナと予測変換しスマホまでもがコロナ禍にいる

淑徳高等学校三年（東京都）　藤原祐奈　18歳

吊り革を触らずバランス保ちつつ両手に荷物今日も筋トレ

昭和女子大学附属昭和中学校三年（東京都）　加藤理子　15歳

秋の午後ホウキギターをにぎりしめ聞いてください本当の俺

世田谷区立梅丘中学校二年（東京都）　黒田孔　14歳

自粛中一人でいること多かった自分の声を忘れていたよ

専修大学附属高等学校一年（東京都）　清水利空　16歳

歓喜の輪ハイタッチじゃなくヒジタッチ新しい日々始まる一歩

専修大学附属高等学校二年（東京都）　伊藤諄哉　16歳

リモートで遅刻欠席ゼロだけど下はパジャマの校則違反

玉川学園中学部三年（東京都）　竹川友梨　14歳

街中で咳き込む人を睨みつけ私は既にコロナ脳なり

東京都立片倉高等学校二年（東京都）　島倉匠　16歳

# 『俳句』

「はやぶさ」で突っ切ってゆく夏の川　植村公女

居酒屋の津軽三味線夏闌ける

十薬や本郷菊坂雨となる

夕暮れて躊躇わず落つ沙羅の花　木村歩歩

猛暑日に人ひとりなし散歩道

水澄んで朝日に透ける藻の花よ

白壁の眼がしら射貫く西日照り

にごり湯に肩に触れん山百合の香

中庭に一本だけの菖蒲かな　今泉如雲

青嵐や棟方志功出生地

鯱鉾の尾びれの反りや梅雨夕焼

初夏の満月よりの地心距離
画帳にはメモしてあり初夏句
はるばるとねむの花咲く隠岐の島
姥百合は無垢純潔に直と立つ
木もれ陽の範囲に咲きぬ姥百合は

**今泉由利**

図書館を見守り舞へりモンシロチョウ
校門を出で来る顔の大西日
飛ぶことの大きく空に燕かな
向日葵の高さを競ふこちら向き
赤みまだ薄きトマトやカラス鳴く

**矢崎直人**

# 五感を澄ませば（3）

杉浦恵美子

## しんしんと

最近読んだ小説『白き瓶　小説長塚節』（藤沢周平）に興味深い箇所がありました。

「節も『赤光』が世に出たあと『アララギ』に茂吉調が流行するのを見て、『今アララギには斎藤君の模倣が充満して居て殆んど鼻持もならぬ。しんしんといふ言葉でも実に驚くほど多く使用されて居る。悪口をいへば三月号はしんしん号と改めてもいい位です』と書いた。」

これは斎藤茂吉の代表作の一つ

死に近き母に添寝のしんしんと遠田のかはづ天に聞ゆ

を指しているのでしょう。「しんしんと」とは擬態語で、漢字を当てれば「深深」。一般的には（夜が更けたり雪が降ったりして）「あたりが静まり返る」ことを表します。

それがこの歌の場合、第三句にあることで夜更けの、母に添寝している部屋の中の様子と遠田の蛙の鳴き声とのどちらにも取れるようになっているところが効果的。またこの擬態語を遠田の蛙の鳴き声（擬音語）にしてしまうところも斬新。「しんしんと」を蛙の鳴き声の擬音語と捉えれば、擬音語と擬態語の重層効果。ちょっと和歌の修辞技巧の掛詞みたいです。

作者はそこまで意識していなかったようですが、読み手にとっては蛙の鳴き声が「しんしんと」天に昇華していく様子が鮮やかにイメージできます。

当時のアララギ歌人達がこぞって真似したくなった気持もわかります。

さて擬態語＝オノマトペ。日本語はこれが非常に豊富。ざっと２０００語もあるらしい。そして私たちは、習わずとも自然と身についており、日々駆使しています。たとえばこのように。

今日も朝から（かんかん）日が照って、おまけに蟬が（しゃーしゃー）喧いから、汗が（だらだら）止まらない。（ぽたぽた）落ちるし、背中は（べとべと）。こんな暑い日には（きんきんに）冷えた飲み物を（ごくごく）飲んだら、汗が（さっと）引いて（すうすう）して気持ちよいだろうな、と想像するとつい（にやにや）してしまう…。

ところで右の文から擬態語をすべて除いたら何て平凡

な描写なんでしょう。

このように日本語の表現の豊かさは、擬態語に助けられていると言っても過言ではないかもしれません。特に漫画や劇画では必要不可欠でしょう。

さらに新しい使い方の例が加えられていけば無限の可能性。

そういえば茂吉の同時代人で、アララギ歌人の伊藤左千夫の代表作

おりたちて今朝の寒さを驚きぬ露しとしとと柿の落ち葉深くの、「しとしと」も一般的には「雨が静かに降る様子」を表しますが、ここでは柿の落ち葉が朝露にしっとりと濡れている様子を表表しています。これなどあまりしっくりしているので今まで気にも留めませんでした。

しかし改めて読み返してみると、作者の工夫の跡がしのばれ、親しみを覚えます。

そして何より作歌のヒントを頂けている気がします。

**しとしともざあざあもなく梅雨過ぎぬまして蛍を見に行きもせず**

# 楽しい時間　118

山本紀久雄

2022年7月31日

## 「明治天皇が鉄舟から得た判断基準」その三

新天皇の践祚の式は、慶応3年（1867）1月9日、小御所で行われた。

睦仁親王は申の刻（午後4時前後）、御座に坐った。御座の右側に剣璽（草薙剣、八尺瓊勾玉）が安置され、新天皇（明治天皇）に睦仁親王が正式に即位した。

睦仁の祖父中山忠能は、睦仁の生母である中山慶子に次のような和歌を詠んで寄せ、複雑な喜びを表した。

かなしくもかなしき内に嬉しくも
嬉しきことは今日の一事

1月25日には、禁門の変に際し参朝停止などの処分を受けていた祖父中山忠能や有栖川宮熾仁親王らも、処分を解かれた。同月27日、孝明天皇の葬儀が行われ、棺は泉涌寺境内の山稜に葬られた。また2月16日、「孝明天皇」という追諡号が与えられた。なお、今まで孝明天皇の生前にも便宜的に「孝明天皇」という名で述べてきたが、天皇は一人であるので生前には天皇名は必要なく、このように死後、追諡号が贈られる。明治天皇についても同様である。

孝明天皇後月輪東山陵・のちのつきのわのひがしのみささぎ

孝明天皇が逝去されて2か月経過した慶応3年3月1日、喪が明けた。睦仁は年始及び践祚後の拝賀を受けた。

次に、若き天皇の花嫁となる皇后について述べたい。（以下『明治天皇・上巻』ドナルド・キーン著　新潮社　2001参照）

慶応3年6月27日、権大納言左近衛大将一条実良の妹美子、御学問所で初めて天皇の謁を賜った。この参内は、美子の容姿風采態度を天皇に披露することだった。もし気に入らなければ、天皇はこの花嫁候補を自由に断ることが出来たが、その家柄と美子の多芸多才な嗜みは、天皇の気持ちをすでに傾かさせていた。

美子の父は故左大臣一条忠香、母は伏見宮邦家親王の娘・順子である。家系は申し分なく、美子は諸学諸芸に通じていたし、目立った病気もなく、8歳のとき、既に種痘を済ませていた。

以上から美子は若き天皇の花嫁として申し分ない相手と思われたが、一つ、問題があった。それは美子が明治天皇より年上だったことである。

明治天皇は嘉永5年（1852）9月22日生まれ、美子の生まれは嘉永2年（1849）5月9日で3歳年上である。

年上については、何も克服できない障害ではなく、既に霊元天皇（1654～1732）、桜町天皇（1720～1750）、仁孝天皇（1800～846）の女御は、いずれも天皇より年上だった。

しかし、美子の3歳年長は、俗に「四ツ目」と言って、避けるべき不吉な年回りとされていた。

この「四ツ目」の説明は難しいが、以下の二つの資料で述べたい。最初は『十二支の四ツ目・十目に関する俗信について』（腮尾尚子　国立歴史民俗博物館研究報告　第82集　1999年3月）である。

江戸中期に五行相剋説（水・火・金・木・土の五つの根元要素が互いに力を減じ合い、水は火に、火は金に、金は木に、木は土に、土は水に勝つという考え方）に基づいて「四厄重惑」という迷信がつくられた。

それが発音の近似から「四悪十悪」と誤られ、更に分かりやすく「四う目十う目」と変化し、四う目とは即ち三つ違いを言い、十う目とは即ち九つ違いを言い、この男女は性が合わないから結婚してはいけないと言い伝えられたという。

次は、『結婚訓』（穂積重遠　中央公論社　昭和16年刊）の記事である。

夫婦の年齢の違いで「四め十め」と言って三つ違い及び九つ違いを嫌うのであるが、これは「夜目遠目傘の内」、即ち夜中に会い遠くから見て、又は傘の内をのぞくと大抵の女性が美人に見える。という俗諺があるところから「夜目遠目で判断してはいけない」という至極もっともな結婚への調べ方だったものが、脱線したのだというお笑い話みたいなものだったという。しかし、これがどれだけちょうど頃合いの結婚を妨げているかもしれないのである。

明治天皇と美子の結婚への解決策は、美子の生年を嘉永2年から嘉永3年にすることで、この問題をクリアしたのである。

なお、現在の各史料では、昭建皇太后（美子）の生年は嘉永2年に統一されている。

明治天皇と美子皇后（昭建皇太后）は子宝に恵まれることはなかったが、生涯を通じてお互いにすべてを捧げ尽くした。美子は、それ以前のいかなる皇后よりも遥かに傑出した皇后として広く国民に慕われる存在になった。

ここで明治元年の明治天皇に関する関係事項を振り返ってみたい。

① 1月3日　鳥羽伏見の戦い
② 1月15日　元服
③ 3月14日　五カ条の御誓文
④ 3月21日　大坂へ行幸　46日間滞在、初めて京都の外に出て、海や軍艦を見、薩摩藩士の大久保利通や長州藩士の木戸孝允の拝謁を受ける
⑤ 4月11日　江戸開城
⑥ 8月27日　禁裏御所で即位の礼を行う
⑦ 9月8日　明治と改元、一世一元の制この時より始まる
⑧ 9月20日　東幸に出発
⑨ 10月13日　江戸着、江戸を東京と改名
⑩ 11月22日　外国公使に拝謁を許し信任状を受け取る
⑪ 12月8日　東京を発って22日京都に帰還
⑫ 12月28日　一条美子と婚儀

上記⑦元号改元を少し補足する。9月8日には、年号が慶応から明治に改元され「一世一元の制」が定められた。

この「明治」という出典は「易経」の中に「聖人南面して天下を聴き、明に嚮（むか）いて治む」という言葉の「明」と「治」をとったものである。聖人が南面して政治を聴けば、天下は明るい方向に向かって治まるという意味である。この明治という改元によって封建時代から近代化へ、日本は見事に変換したわけで、改元は大成功であった。

## 『酔いの徒然』（一二五）

丸山酔宵子

### 『北の大地の大空の中で』

果てしない大空と
広い大地とその中で
いつの日か幸せを
自分の腕で掴むよう
歩き出そう明日の日に
振り返るにはまだ若い
吹きすさぶ北風に
飛ばされぬよう飛ばぬよう
こごえた両手に
息を吹きかけて
しばれた体を温めて
生きることがつらいとか
苦しいだとか言うまえに・・・・

これは彼の北海道出身の痛快なシングソングライター松山千春の「大空と大地の中で」の雄大な北海道の大地を高らかに歌い上げた有名なイントロである。

今年に限って関東は、空梅雨で連日の猛暑が続いていたが、例年ならばラベンダーと鈴蘭が咲き零れ、梅雨の無い筈の快適な北海道は逆に連日の雨模様とのことである。

7月2日、新千歳空港に着陸すると、予想もしない果てしない大空が碧く広がり雲ひとつ無い快晴である。新千歳空港から一路、日高山脈を越え十勝平野を経て、阿寒湖、屈斜路湖、摩周湖を廻り釧路、網走へと向かう道東の旅である。

深い緑の広大な蝦夷の大地を貫通している道東自動車道を只管（ひたすら）進んでいくと、小麦畑、じゃがいも畑、玉ねぎ畑が続き、十勝平野周辺には大きな牧草地が広がりっている。

### 麦秋の大地貫く蝦夷の道

酔宵子

十勝平野に入り左手に大雪山、前方に雌阿寒岳を臨む大雪山国立公園と阿寒湖周国立公園に彩られた景観の道東自動車道をただ只管走ると、忽然と「道の駅　あしょろ」が出現する。

町面積１４００キロ平方メートルと全国一の広さを誇るが、人口は約８、７００人という大変ひっそりとした街で、冬の厳しさを想像すると、一面雪に覆われ、凍（しば）れ

る突風が、遮るものの無い足寄（あしよろ）の街を吹き抜けていくのである。

実は、この寂れた北国の小さな町、足寄郡足寄町こそ、松山千春が生まれ育った故郷なのである。

FM NACKS 5（エフエムナックファイブ）で毎週日曜日午後9時から「ON THE RADIO」というタイトルで松山千春のディスクジョーキーがある。歯に衣を着せぬ発言だが、そこに男の優しさに満ち溢れ、社会の様々な出来事を語る番組で、時間があるときは必ず聞いている楽しく心癒される番組である。

ある日、その番組の中で、松山千春のデビューに至るまでの話をしんみりと懐かしく話していた。

## ロック手にエフエム流る夏の宵

酔宵子

松山千春は1975年に「全国フォーク音楽祭」の北海道大会に出場するも落選するが、この大会を見に来ていたSTV（札幌テレビ放送）のラジオディレクター竹田健司さんに見いだされ、翌年1976年、同局「サンデージャポンスペシャル」内の15分コーナー『千春のひとりうた』で初めてメディア・デビューを果たしたのである。

1977年「旅立ち」でメジャー・デビューを果たすのであるが、松山千春を見出し二人三脚で歩んできた竹田健司さんが、同年8月急性心不全で36歳の若さで急逝してしまったのである。

竹田健司デイレクターが亡くなって半世紀。ある日の「ON THE RADIO」の中で、松山千春は恩人である竹田健司さんのことを、つい昨日のようにしっとりと懐かしそうに話していた。当時、若気の至りで調子に乗って酒を飲んで失敗した事を厳しく窘（とが）められ、「おい！千春！何やってんだ。金輪際、酒かたばこの何方（どちら）かを止めろ！」松山千春は竹田健司さんが亡くなってから、現在に至るまで酒を一滴も飲んでいないとのことである。

道東の蝦夷の小さな町足寄町から生まれ育ち、現在の地位を築いた姿は、何もない冬の厳しさのありのままの足寄町の姿を知り、尚更（なおさら）、ロマンチストである松山千春の義理堅さ、感受性、人間力をつくづく感じるのである。因みに蛇足ですが、北方領土復帰で活躍するお騒がせな政治家、「新党大地」代表の鈴木宗男も足寄町出身で、お互い熱く強い信頼関係で結ばれているようだ。

## 蝦夷の地の日熊も鹿も熱い夏

酔宵子

# 童話「ゾウさんの絵」

高橋育郎

耕太くんが小学校3年生のときでした。
一学期の始めに、お父さんがタイへ半年くらいの長い出張で出かけました。
耕太くんは、お父さんのかえりが待ち遠しいのです。
学校で図画の時間に、先生が「きょうは、みなさんに自分の好きな動物の絵を描いてもらいます」といいました。
そこで耕太くんはタイのお父さんを思って、ゾウさんの絵をかきました。すると　となりの子が「あっ！ゾウさんの絵を描いている」
と　大きな声でいいました。みんなも「わぁー　ゾウさんの絵か　すごいな」といいながら見に来ました。
「ほんとうだ。ゾウさんの絵だ」と口々にいいました。先生も見に来ました。「そうね。ゾウさんね。耕太くんのお父さんは、いまタイへいっていて　しばらくかえらないから　お父さんにあいたいのでしょうね」と　やさしくいいました。みんなが描く絵は　イヌやネコ　にわとりなど家で飼っているものばかりです。ゾウさんを描く子はいませんでした。
耕太くんは　家に帰ると　お母さんにいいました。「きょうは学校で　ゾウさんの絵をかいたんだよ。そうしたら　みんながびっくりしていたよ。先生はお父さんに早くあいたいのでしょうねって　いっていたよ」と　うれしそうに話しました。

それからまもなく、不思議なことが起きました。耕太くんが机に向って勉強をしているとき、窓の下でドスンと大きな音がしました。驚いて窓をあけると、そこにゾウさんが立っていました。
耕太くんは、ゾウさんに「こんにちは」とあいさつすると、ゾウさんがいいました。「耕太くん、お父さんがタイへ出かけていて、さびしいでしょうね。ボクがお父さんのところへつれていってあげましょう。

ボクのせなかに乗りなさい」
耕太くんは「ありがあとう」といって、ゾウさんの背中にワクワクしながら乗りました。
おもてどおりにでると　またおどろきました。なかよしのともだち二人が　トラとヒョウにのって耕太くんを待っていたのです。
「やぁ　耕太くん　三人でタイへ行こうよ。たのしいね」といいました。「三人でいけるなんて　うれしいな」耕太くんは　ほんとうにうれしそうです。
「さあ　出発だ」三人はトラとヒョウとゾウのせなかに乗って　そろって表通りを歩きだしました。道を行く人は　立ち止まって　笑いながら手をふってみおくっています。
少し歩いてから　左にまがると　広いみわたしのいいところに出ました。三匹のせなかに乗った三人は　しばらくまっすぐ歩いていくと、向こうにジャングルが見えてきました。耕太くんは　あのジャングルをこえると　お父さんがいるんだな。もうじきあえるんだなとニコニコしました。
そのときです。空のうしろのほうから　大きな羽の音がきこえてきました。耕太くんが　びっくりしてふりむいてみると大きなワシが耕太くんを　めがけて飛んできます。耕太くんは　おどろいて「ウワー」とさけんで　みをかがめたとき　ゾウさんのせなかから落ちてしまいました。そして　目をさましたのです。
耕太くんは　キョロキョロしていると　お母さんが「耕太　ゆめでもみたの」と聞きました。耕太くんは「なーんだ　夢だったのか。ボクね　ゾウさんに乗って　お父さんにあいにいくところだったんだよ」というと、お母さんが「そうだったの。さっきね　じしんがあって、ドスンと大きな音がしたんだよ。それで　ゾウさんの夢をみたんでしょう」といいました。「そうだったのか。夢だったのか」といって、耕太くんは　またねむってしまいました。
朝　おきると　ゾウさんに乗った夢がうかんできました。学校へいくときも　まだゾウさんのせなかにのって　ゆられているような　きもちでした。「そうだったのか　夢だったのか。でもこんどは　またゾウさんに乗って　ほんとうに　お父さんにあいに行きたいなと思いました。（おわり）

# 絹の話（142）

「アトリエトレビ」今泉雅勝

## 絹「綿（わた）」が気持ちの良いわけ

### 〈絹綿枕から学ぶ〉

**脳の勘違い**

1）聞く、見る。

絹という言葉を聞くと、人の脳はそれまでの経験の蓄積から品物の艶や感触を想像します。

現物を見ると柔らかさや艶など具体的な情報が認知され、聞いた時に想像した事と見た時との違いを脳が修正します。

2）触る。

人の手は超微細識別センサーで、柔らかさ、温かさ湿り気、重さなどを感知。触覚は見聞した時とは違った具体的な修正情報を脳に伝えます。

この枕は聞いたり見たりした時と、触った時との感触の差異が好ましい方向に大きいほど、気持ちがよいと感じますが、枕に絹綿の挿入量を増やして、見た目の体積より判断して重いと感じた時快感は減少します。

**手の触覚はどの様な情報を脳に送ったか**

枕に挿入されている絹綿は繭を糸状にした物ではなく、綿状にした物で、蚕から吐糸された髪の毛の1／6～1／20（繭の種類によって繊度差がある）の細い糸が縦横に絡みあったクッション性のある状態です。

人の触覚は髪の毛より細いしなやかな物に触れると、その情報が視床下の脳に伝わり、オキシトシンと言われる愛情性ホルモンの分泌が促され「気持ちがよい」と認識します。

**手と首筋の感受性の差異**

人は体の部位によって感受性は異なります。手のひらは総合窓口の様なもので、絹綿枕を首筋に当てると、手のひらで感じた感性とはかなり違った複雑な性的快感を覚えます。但し老若男女の感性はそれぞれ差異がありますが、総じて女性は枕の中に挿入された家蚕やエリ蚕の細い糸を枕カバーの上から指先の感触で選びます。男性はやや感度が違うようで、糸が太く節があり、弾力性の大きい枕を好みます。

**気持ちの良さは何がそうさせるのか**

1）空気

枕に挿入された糸間の空気が気持ち良さの60％位を占めていると推測されます。その空気とは絡み合う糸間の空気と糸の軟結晶の部分の空気、さらにヤマ

マユガ科の場合は野蚕の糸の多孔部分の空気（ムガ蚕糸は25％位が空気）です。
この空気は木綿や化繊等の繊維間を通った空気とは違った森林浴的爽快さを感じます。
但し、枕の使用によって、次第に綿が圧縮され1／2～1／3に嵩高（かさだか）が減少すると気持ちの良さもそれに比例するように減少します。

2）繊維の細さ柔らかさ、しっとりさ
人の手首の触覚は繊度の細さと適度な湿度と硬いようでソフトな不思議な柔らかさを感知すると、母親の胸に抱かれている様な安堵感を覚えます。

3）絹のアミノ酸の効果
シルクは20種類のアミノ酸で構成された蛋白質で親和性に優れた繊維です。但し、まれに（1／20万）シルク蛋白アレルギーの人がいます。
絹に大量に含まれるアミノ酸のグリシン（家蚕糸の40％強、野蚕糸の30％弱）が接触している皮膚に触れ、外側からも幸せホルモンのオキシトシンの分泌を促し、さらに0・2％とか0・1％しか含まれないシスチンやメチオニンが活性酸素の電子を吸着して肩こりや老化抑制にも働いて、その他の各種アミノ酸も疲労回復など様々な働きをしていると思われます。

4）絹鳴り
絹糸同士が擦れ合う音は耳には聞こえず（精錬の仕方で聞こえる時がある）、肌で感じる音で、癒しの効果をもたらしています。
絹で作られている和の弦楽器の妙なる響きは耳で聞いて肌で感じとっている事と共通しています。

## 安眠とは

人が睡眠に至るには脳の指令により体内活動を抑制し、体の中心部の温度を低下させながら手足の末端に移動させなければなりません（手足が温まると眠くなる）。
絹を枕に利用すると蚕の休眠シェルターである繭の保温保湿、放温放湿（気化熱が体温を奪う）機能と光のある時は蛹の休眠を阻害する朝日のような青い短い波長の光（含紫外線）を吸収反射（その時熱量を奪う）し、人の体内体温を1℃前後低下させ、余剰体温を手足に運んで安眠（休眠状態）を誘導していると思われます。
但し、絹綿枕は室温が20℃以下の時に気持ちが良く、それ以上になると頭寒足熱の教えの通り、頭の温度が高くなり快眠感が低減します。
波長の短いスマホやハロゲン電球の青い光は睡眠を阻害します。就寝前のスマホは控え、寝室は超波長の夕日のような赤い熱量を持った光を使う事をお勧めします。

# 「江上浩二の独り言」57

江　上　浩　二

## ここ掘れワンワン、水と油

井戸があって、10メートルまで掘れる技術を持った部族Aがいた。遠く離れた地域の部族Bがいて、その部族は20メートルまで井戸を掘れる技術を持っている。さらに、別の部族Cは30メートルまで井戸を掘れる技術を開発して、水を得て部族を養っていた。

10メートルの井戸が枯渇して部族Aは滅んでしまったと言う。しかし、部族Bから20メートルまで掘れる技術を習ったとしても、部族Aが住む地域で20メートルまでの深さで水が出るか否かは賭けみたいなもの。必ず、20メートルまで掘れば水が得られるという確信があればハッピーという事になる。

又、よく考えると、深さ10メートルで取れた水の値段と部族Cが30メートルまで掘り下げて得た水の価値は違うはずだ。それらを容器に詰めて市場へ持って行き、同じ水で価格の違ったものなど売れない。しかし、10―20メートルの井戸が枯渇して、全て30メートルより深い井戸を掘れる技術の重要性と高いコストが市場で受け入れられると、時間とともに水の値段が上がる世界があることになる。

こんな井戸など掘らなくとも、季節毎に天から雨が降り、それを貯めて充分部族全員を養える部族Dが、やはり遠く離れた地域にいる。しかし、年が経つと天から雨だけでは足りず、悩み始めた部族がいるという。

現実に戻ると、今やこの笑い話の水を石油や天然ガスに替えて考えると、まさに我々が直面しているエネルギー問題になる。水を飲むだけならいいが、化石燃料を燃やして各種エネルギーを得ると、悪者にされた二酸化炭素ガスが排出され、地球の温暖化の犯人とされている。先の２００９年12月のコペンハーゲン会議で、シナリオ４５０が提案され、現状の化石燃料の使用ペースのままだとレファレンスシナリオと言って、ゆくゆく大気の二酸化炭素ガス濃度が１０００ｐｐｍまで高まり、予測温度上昇が６度とされている過酷な悲劇的な状態に陥ってしまうものを言う。シナリオ４５０の４５０は大気の二酸化炭素ガス濃度を４５０ｐｐｍまでに抑えようとする（現状は約３９０ｐｐｍ、２０３０年まで）、各種再生可能エネルギーの積極的開発投資政策と省エネ政策を全地球規模で推進しようとするものである。このシナリオ４５０でも、温度上昇は２度とされている。

季節毎に天から降る雨と比喩したことは、再生可能エネルギー量のことであって、天高くから降り注ぐ、太陽光（ソーラ発電）、太陽熱の直接利用、地熱利用、バイオマス利用、風利用の風力発電などである。降る雨は貯める大きな甕で十分であるが、我々が直面している各種再生可能エネルギーを有効利用するためには、〝深く井戸を掘れる技術〟に相当するイノベーション技術を開発しなければならない。

こんな事を話しているが、化石燃料資源がまだまだあることが最近解ってきて、近い将来それが大量に利用出来るようになると、その化石燃料の価格がかなり下がるかもしれないという。コストがかけられる井戸を深く掘れる技術のもう一面は化石燃料の埋蔵量、埋蔵地域をドラスティックに変えてしまう事である。例えば地下２０００ｍまでの原油を掘れる技術と、埋蔵している地域をこれまでの資源国と考え、新たに地下４０００ｍまで掘削出来る技術を持った所に、運良く深部に天然ガスが埋蔵されている地域があるという新たな戦略的資源国が解ってきた。左記に紹介した資料の11ページを読むと、米国に相当な埋蔵量のシェールガスがあることが示されている。

http://www.meti.go.jp/committee/materials2/downloadfiles/g90406c07j.pdf

以上の様な話が12年前の９月に記され、２０２２年の２月以降、世界のエネルギー争奪、物価高騰、食料供給危機等で、世界の地政学的色分け問題にまで発展するなど誰も予想だにしていなかった。ただ従来の路線の延長ではエネルギー価格の高騰が多様な物価高騰に繋がる程度の事と思っていた。

貧しい欧州の国々の人達が15―16世紀に海洋を西進し、アメリカ大陸を発見し、同じ欧州の東寄りの国の人達が地続きの極寒の大陸を東進し、最果てのサハリン・カムチャッカに達した。アフリカの大群を制するボス格の象は遠く離れた水の気配を感じ取ることができ、乾季に数百キロｍを歩いて水場へ群れの生命の為に導くという。それに比べて人は、地下の深い地層に含まれる石油や天然ガスを取り出し、地表の太いパイプで数千キロｍ輸送できるインフラシステムを構築出来るまでのスマートさを誇示するに至っているが、その途中にバルブを設け、それを右向け右と経路を変えたり、閉ざすことによってエネルギー供給を戦略的いや意図的に運用しようとする輩も地球上にはいるのだ。

# 初狩便り（10）

花野みぷり

## 登熟（とうじゅく）

九月になると田んぼは少しずつ色づいてくる。赤とんぼが飛び交い、蟷螂（かまきり）は大きな鎌を振り上げ威嚇してくる。日が沈むと虫たちの大合唱が聞こえる。

立秋の頃に出穂した稲は、受粉すると殻を閉じ実が熟す「登熟」に入る。この時期に晴天が続くと光合成が盛んに行われ、米はおいしく、たくさん実る。日が沈むと昼間に光合成で作ったブドウ糖を稲に送りこむ。これを「転流（てんりゅう）」といい夜間の気温が低い方が転流は盛んになる。昼間は止めておいた笹子川の冷たい水を夕方田に送り込むと、稲が喜んでいるように見える。昼間は暑く夜涼しい初狩の天候は、稲づくりにぴったりというわけだ。

私たちの田んぼでは、八月末から水を入れる工程と水を抜く工程を数日ごとに繰りかえす間断通水（かんだんつうすい）をする。これは水分の供給と酸素の供給を交互に行うことで、さらに根をしっかり育てる。そして少しずつ水を抜き、泥田から乾田に切り替える。田が乾いてくれば、稲刈り用のコンバインも入る。まもなく稲刈り。あとは台風が来ないことを祈る。

（写真・菅野昌英）

# 本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

本田のひとり言
https://hondachiro.exblog.jp/

2022年8月10日
**ギックリ系の予兆**

外を歩けば風呂上りの様に汗をかく暑さですね
ここ2日は心地よい風が吹き助かります
前回の
本田のひとり言　にも書きましたが
季節外れの　ぎっくり系が出ています
そこで
大きく崩れる前に出る身体の症状として
膝の違和感や痛み
手や指の違和感や痛み
足の裏や足首の違和感や痛み
肘や手首の違和感や痛み
などなど
身体の末端に症状として出やすかったりします
あとは
食事前後の吐き気
の問題も出やすかったりします
ですので
3S+ゆたぽん+ヨーグルト　以外では
30分以上同じ姿勢を避ける
就寝前に沢山食べない
睡眠不足にならない
油分の多い食事は減らす
という事が大切になってきます
身体を労わっていきましょう
今日も笑いながら行きましょう

2022年8月12日

## 再感染を防ぐ

早朝の日の出のお天道様は幻想的ですが
その状態からいつものお天道様に変わる瞬間も面白く
空の色から雰囲気まで変わります
しかも一瞬でです
自然から学ぶことがまだまだありますね
ウイルスに感染し復活した患者さんを施術する時
感染中の症状や感染した経路などを詳しくお聞きします
なぜなら
1度感染すると再感染する可能性が高いからです
なので
緑茶や紅茶うがいを30分～1時間おきにしていたか？
手洗いを1分以上していたか？
アルコール消毒は指先を中心にしているか？
マスクを外す時はどんな状況だったか？
などなど
生活の流れなどもお聞きします
感染したかたで無症状の方でも
身体には少なからず負担がかかります
症状が出た方は辛い思いをしたはずです
身体にも大きな負担がかかっています
ですので
病み上がりでの質疑応答は不快だと思いますが
出来れば2度と辛い思いをしてほしくないと思うわけです
一緒に身体を守って行きましょう
今日も笑いながら行きましょう

康鍼治療院（www.yasuhari.com）　玄　翁

## 「腑に落とす」

「腑に落ちる」とはわかること
なるほど、そうかとわかること
腑とは臓腑、消化器官
消化できれば腑に落ちて
心も体も糧を得る
消化は未来を作り出す

消化にゃ２つの働きあり
腑・頭で消化する
腑栄養とりいれて、身体元気にする働き
頭は情報とりいれて　心を元気にする働き

しっかり消化は「ゆとり」が必要
取り入れるモノの量
腹も頭も六分目が良い
詰め込みゃ、ただただ消化不良

消化にゃ時間という「間」も必要
時間をかけてゆっくりと

熟成・発酵を　徐々にしながら消化する
新たな栄養・情報は、
時間をかければ　腑に落ちる

頭の消化ができたなら
心の栄養満たされる
消化不良は、胃もたれ同じく
頭の停滞引き起こす

情報過剰で間の無い現代
全てが即効・即戦力
腑に落とす　ゆとりが無
くて
皆が消化不良となる
思考の力が落ちる時

頭の消化は間が必要
間を持ち、しっかり腑に落
とす
これが思考を育てる道な
り
消化は未来を作るなり

## 「足裏刺激は脳刺激」

足裏刺激は脳刺激
足裏感覚　育めば
頭や脳が活性化

感覚使えば気が巡る
感じたところに気が巡る
立って足裏感じれば
足裏脳と繋がって
神経・感覚刺激され
全身一気に活性化

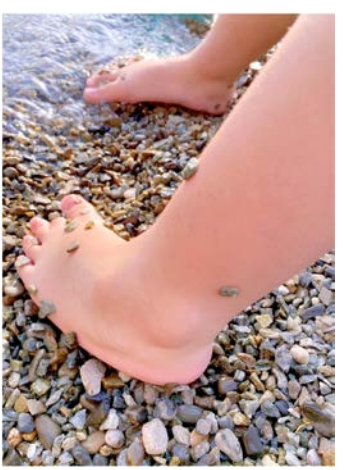
足裏めぐる気の流れ
　腎の気・精を主る
精は精力、元気のもと
足裏使えば　腎気が動き
　脳の働き整える

青竹踏むのは昔から
　足裏刺激の健康法
幼子足裏刺激して、
　頭が良い子が育つぞよ
大人も足裏刺激して、
　頭が働き活性化
　鬱も痴呆も遠ざかる

足裏鈍って固まれば
腎気が巡らず　精弱る
精の衰え老化の始まり
心も体も病となる

たまには裸足になればよい
自然の中で素足になって
足裏大地を踏みしめる
砂や芝生の感触や　土の凹凸感じれば
足から本能取り戻す

足裏刺激は脳刺
激
足裏生きる土台
なり



# 乱蝉を聞く

横山精真

疫禍紛争は　歴史に繁く
異常なる気象は　源を匡す可し
驕陽午月　樹陰閙がしく
筆を擱き空斎　酒樽を近づく

聞乱蟬　令和四年七月二十四日

疫禍紛争歴史繁　異常気象可匡源
驕陽午月樹陰閙　擱筆空斎近酒樽

**（語釈）**○乱蟬…乱れ鳴く蟬（の声）。　○疫禍…疫病の禍。　○源…根源。　○匡…ただしくする。○驕陽…夏のはげしい太陽。○午月…陰暦の五月。○擱筆…筆をおく。○空斎…誰もいない部屋。

**（通釈）**疫病と戦争は歴史に繰り返されてきた。又、天候は異常気象としか言いようのない状況であり、早く地球規模で対策を為すべきだ。

太陽の照りつける七月、庭の木陰は盛んに鳴く蟬の声でうるさい。

書きものを止め、私は一人、酒でも飲む。

※コロナは変種を生み、丸三年を迎え我々を悩ます。ウクライナ問題は、今この時代に?とロシアの武力行使に驚愕した。そして「ウクライナは亡びず」と云う国歌に、又驚いたが大昔より想像以上の侵略に満ち、近代になっても気の毒なほど複雑な成り立ちがあるようだ。逆に日本の天皇を中心にした歴史観とはあまりにかけ離れていることを思う。

とあれ、考えてみれば人間は疫病に苛まれ、各地域で事情は異なるが戦争を懲りなく繰り返して其の歴史を営んでいるに他ならない。

自然界はと云えば、天候は近年まことに不順。雨が降れば集中豪雨、世界には山火事が続発している。気温は上がり。海水温度も上がり、北極、南極の氷、大陸の氷河も溶け、海面は高くなる。加えて、プラスチックゴミの処理など地球規模の問題があふれている。

地球は段々狭くなってきて危険な曲がり角に立っているようだ。

# 西芳寺（苔寺）にて

古刹西芳寺　蘚苔の庭
池泉は心の字　山号を洪隠
遠南にして風韻　夢窓の国
暫時坐處　思いは静静

今泉由利

写教古刹蘚苔庭
心字池泉洪隠山
遠南風韻夢窓国
暫時坐處思静静

**語釈**

古刹＝古い寺
洪隠山＝苔寺の山号
苔庭＝こけの庭
風韻＝風流なおもむき
夢窓＝枯山水作庭家
暫時＝しばらくの間
坐處＝すわる・かがむところ
静静＝自然にゆったり、静かに…

**通釈**

西芳寺の休観中、誰も居ない、古刹苔の庭。玉由と私と二人だけで過したことがありました。外国で育った子が、いともすみやかに写経をしたことに、おどろきました。西芳寺にいた、深い時間、新しい自分になってゆく時を得たのでした。

# 「氷魚」のことから（259）

岡本八千代

北の方を向いた大きなベットに私独りの寝たりしている所。間は、北向きで、八畳である。食事は、何かかにかを現代風にあしらって、この部屋に持ってきてくれる。こんな倖わせなことはない。娘たちの年令もみな七十歳になるので、老人ばかりの家みたいであるが、おかげで娘たちも考え方がハイカラで、このだんな様たちもよく理解してくれて、もめごとにはなっていないような気がする。???

日本の生活の仕方もずいぶん変化してきているが、これからもっと変わってくるだろうとも思って楽しみにしている私である。

いずれにしてもまだまだ変わってくることであろうとも思うようになった私。変な老衰婆さんとなってきてしまった私を感じつつ。

つくづくとわが老衰を感じつつ今まだ命ある自分をありがたく不思議に思う。これが、私に与えられた運命というものか?それとも眼には見えない天つ人のご命令なのか??。

ここに数枚の反古紙があったので、今の老衰となった自分を書いてみる。

• 老衰となり三週間つくづくとわが老衰を味ひつつあり……などと反古紙の裏に書いてあった。

• また、その反古紙の裏には「生をひきしぼって作歌実行に移る時は全身の筋神経を経すの緊張が必要」と書いてあった。

二つの考え方も大切なことはよくわかる。しかし、ここは、自分を忘れてはなるまい。あくまで、自分の作歌活動ということを忘れてはなるまい。あくまで自分の歌作りを考えていかなければならないだろう。作歌活動をこれからも続けてゆくのは、自分自身なんだから。私、私自身が勉強して、自分の歌を創作してゆくべきだろう。

私、すっかり老いてしまって、たいていの場合ベット生活である。あちこちへと歩けない。歩けない。もうじき、百歳にならむとする倖せ!それで一首一首を作ろうとする意欲だけは残っているつもりであるらしい私。

• 老衰となりつつあるを感じつつ今夜もメガネをわが息かけて拭く

• 老衰と感じつつ静かに眠らむにまたもまぶたのあつくなりつつ

△これで明日があるかないかは知らない。あゝ、百歳になろうとする老婆の私よ。

「グド・ナイ」

# 編集室だより【二〇二二年七月】

今泉由利

○私の父、御津磯夫の、三河アララギ編集室へ、編集部員が集い、三河アララギの会員から送られてくる短歌の編集をし…短歌誌は、ゆくりなく続いてきました。御津磯夫が亡くなり、今泉由利は、アルゼンチンを住いとしたり、北米、カリフォルニアであったり…居場所は、次々変更しながらも三河アララギ誌を続けてきました。そして、命の限り、続けてゆくものだ！と思っています。

○毎月発行する、三河アララギ誌への、貴重な原稿が届きはじめ、お届け下さる方々の、ご様子を思い〝にこにこしたり〟〝心配したり〟ありがたくてたまらない。先輩方々の作品から、この一ヶ月の季節を、思考を、行動を、毎月々の、この一ヶ月間の。ご様子を知るのです。

私にとって、短歌は、父と母と、お話をするつもりで始まったのですが、リズムを伴うことから、より感情を伝え合える気持がしていました。いつもいつも、私の心に、父と母と、会員の方々への思いが満ちています。日本から離れている時に、日本へ、しっかり結びつけて下さった、皆様の〝短歌〟の存在がありがたかったです。

○俳句は、自分からほとばしる…というより、日本の先輩方々の作品より知った日本を、改めて見る！とちょっと要領良すぎる立場から、俳句のリズムの中に、沢山のことが入り混んでいることに、興味深かった。

○表紙について、絵描きになりたかったけれど長男だから医者にならなければいけなかったと、いう父の、私に残して下さった数々の絵を今もヒントにしている。

○漢詩については、困惑しているばかり。中国の文化も、詩となる構成も、絶対にわからない。中国の詩となる人も歴史も…何もかも理解出来ていない。私の知らない国の、時代の、知らない生活…何一つ知らなくて、何も出来ない。こんな大切なことを、擬(もどき)のままでいることは出来ない。ごまかすことも出来ない。

漢詩を吟じてみて、漢字からほとばしる中国の昔…。私が感じることが、本当かどうかわからないけれど、いつか擬から脱出してみたい。漢詩に失礼しないように。

○自分自身が今の年になっても父と母が必要なように、今は独立して遠く住む私の子供達が、一緒に、私の昔を忍んでくれる。三河アララギ誌が続いてゆくよう、全面のサポートをおしみなく。子供達の助けに、三河アララギが出来上がる月々を、楽しんでいる。

## 明治天皇御生誕百七十年祭
## 明治神宮秋の大祭奉祝献詠募集要項

一、献詠歌　未発表の近詠（一人一首厳守）
一、用紙　はがきに限る
　献詠は楷書にて書き歴史的仮名遣を用いる（小・中・高校生は現代仮名遣）郵便番号・住所・氏名（ふりがなを付す）・電話番号・年齢を明記（小・中・高校生は、校名・学年も記すこと）
一、締切日　**九月二日**（金）必着
一、選者　香川ヒサ・玉井清弘・松平盟子・柳宣宏
　（敬称略五十音順）
一、選歌発表　**十月二十三日**（日）歌会当日　於明治神宮会館
一、賞　一般　特選　一〇名　記念品贈呈
　入選　二〇名　記念品贈呈
　佳作　一七〇名　記念品贈呈
　小・中・高生　秀逸作　若干名　記念品贈呈
一、送り先　〒一五一―八五五七渋谷区代々木神園町一―一
　明治記念綜合歌会係　電話〇三―三三七九―五五一一
一、献詠披講式
　1日　時　十月二十三日（日）午前十時
　2場　所　明治神宮御神前
一、第百四十七回明治神宮献詠短歌大会
　1日　時　十月二十三日（日）午後一時
　2場　所　明治神宮会館
　3歌会内容　入賞歌発表・表彰・選評
【鎮座百年大祭記念企画】
　特別対談　岡野弘彦氏・篠弘氏　ビデオ映像上映

◎　会費　不要
☆来会者には作品集を贈呈致します。
☆作品集郵送ご希望の方は、切手三百円分同封の上お申込み下さい。
※特選・入選・佳作・秀逸作に入賞の方には短歌大会前に予めご通知致します

主催　明治記念綜合歌会
電話　〇三―三三七九―五五一一

## 「三河アララギ」について


◇三河アララギ発行所　〒一五〇-〇〇一三
東京都渋谷区恵比寿三-四五-三
フォーレストヒルズ三〇二
ケイタイ　090-8434-8646
TEL　03-6765-5838
◇URL　http://imaizumiyuri.jp/
E-mail　imayurizm@gmail.com


◇三河アララギ誌は毎月発行します。
◇どなたも参加、投稿いただけます。
三河アララギ編集室 今泉由利 までご相談ください。
◇原稿は毎月末日までに、発行所まで郵送、メール、お届け下さい。
◇会費制は廃止。
◇昭和七年、三河地域のアララギ歌人が集い、創立歌会が開かれ、御津磯夫主宰「三河アララギ」誕生。
◇令和四年現在まで一号の欠刊なく、続いてきました、続いてゆきます。
◇編集・発行　今泉由利